

---

# とある無敵の多重能力者

ゆっぴー

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

JのPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

とある無敵の多重能力者

### 【NZコード】

N8143Z

### 【作者名】

ゆつぴー

### 【あらすじ】

テンプレでとあるの世界に転生したレベル6で聖人で多重能力者で世界最高の魔術師である神野秀也が原作介入をする話です。

この作品は、作者の処女作で駄文です。さらに不定期でオリ主最強ですが、「それでもいい」っていう心優しい人は読んで下さい。

## プロローグと第一話（前書き）

はじめて、ゆつぴーです。

この作品は処女作で駄文の不定期です。  
故にキャラ崩壊があるかもしれません。

「それでもいい。」っていう方は、このままお読み下さい。

## プロローグと第一話

突然だが、俺は死んだらしい。どちらかと言つて夢であつて「夢じやあないぞ。」…夢ではないらしいので、本当に死んだようだ。

神「本当にすまない。お主は、家庭科の調理実習中に、いつちの者のミスで全身火だるまになつて死んでしまつたようじゃ。」

なるほど、これがいわゆるテンプレといつやつか。そういうばなんか最期すごい熱かつた氣がする…。

神「といつわけで、お主には、『とある』の世界に転生してもいひことになつた。

」

あつ、ちなみに俺の名前は、神野秀也（14歳）だ。そして田の前に、神一（？）がいる。

神野「何が『といつわけで、』かわかんないですけど、別にその世界好きだったからいいですよ。あと、特典つて何か付きますか？」

ちなみに俺は禁書のアニメしか見ていないが、一『スクール』が反乱を起こすことや、第三次世界対戦があることは、友人から聞いている。

神「全然大丈夫じゃ。まあ、ある程度は才能でどうにかなるが、それ以上はそれなりに苦労してもらひうがの。」

：それって、特典にならないので「なるぞい。」

あつ、心読まれた。

神「努力してもどうにもならないことも、強制的に努力させてその力を身に付けさせてやると言つてあるんじや。立派な特典じゃろ？？」

：なるほど。

神野「では、とりあえず聖人にしてください。あと、レベル6で多重能力者 テュアルスキル で、さらに十万三千冊の魔導書の記憶とあり得ないほどの天使の力 テレズマ をください。」

神「天使の力と聖人は、才能でどうにかしておくが、あとは努力するんじやの。まあ、原作開始までには、どうにかしておくぞ。」

それなら、問題無さそうだな。そういうば何であるの世界なんだろう？

神「勿論、儂の好きな世界じゃからに決まっておろう。もう言いたいことはなさそうじやの。では、第一の人生を存分に楽しんで来るがよい。」

そして俺の目の前が真っ暗になった。

はい、こんちは。無事転生して今幼稚園の年長になつた神野

秀也改め、高田直人だ。

まあ、俺の転生後直ぐの生活なんか誰も知りたくないと思うから飛ばさせてもらひ。とりあえずすんごい恥ずかしかつただけ言つておひへ。

ちなみに今、俺にはいつも一緒に遊んでいる友達、といふか妹みたいのがる。それが…「直人お兄ちゃん!」「ぐふつ…!」いま俺の鳩尾に頭突きを食らわせてきた佐天涙子である。

高田「んー、涙ちゃん(なみだちゃん)どつたの?」

佐天「えぐつ、あのね、ひくつ、おんなじクラスのね、ずずつ、高良くんと、吉田君がね、うぐつ、いきなりわたしのこと蹴つてきたの、うわーん!!」

」のように、かなりの頻度で俺に泣いて来るから、「涙ちゃん」って呼んでいい訳だが、今はそんなことどうでもいい。俺の妹を泣かせたやつと少しO H A N A S H Iしなくては…!

ちなみにこんな風に涙ちゃんを泣かせたやつは、年上だろうが聖人の力でボコつて謝らせている。決して口リコンなんかじゃないんだからな!……今のは忘れてくれ。

まあ、俺はこんな感じで第一の人生を存分に楽しんでいる。

（その夜）

高田直人の父（以降高田）「お前ももうすぐ一年生なんだし学園都市に行つてみないか？」

高田直人（以降高田）「うん、いいよ……あそこなんか楽しそうだし。（原作介入したいし。）」

おっしゃきたあああ！！！やつと自分の能力がわかるぞおおー！！！明日、涙ちゃんの説得大変そうだな。うん、頑張ろつ…

（涙目）

高田「俺、来年から学園都市に行く」となったんだー」

と過去（前世含む）最高のテンションで話す。

佐天「えー、直人お兄ちゃんと離れたくない……わたしも一緒に行く！」

と若干涙目になりながら言へ。

高田「まあ、行きたいんだつたらまず三年後の小学生になつてからだな。それに、一生会えない訳じや無いし。あとすぐに泣かなによつにすることだな。最後に、これを俺だと思つて大切にしてくれ。」

と言つて、白い花の髪止めを渡す。

佐天「うん！…わたしもう泣かない…！」

なんとかなだめることができた…

## プロローグと第一話（後書き）

感想評価、じんじん下せー。

しかし返信できないかもしません。

あと批判は、できるだけオブリークトで下せー。

第一話 置き去り チャイルドホラー（前書き）

まさかの連続投稿です。

## 第一話 置き去り チャイルドホラー

確かに自分の家は裕福では無いとは思っていた。しかし自分がまさかあの置き去り チャイルドホラー になるとは、夢にも思わなかつた。

基本的に置き去りには、一通りある。一方は、まともな施設で衣食住が保証され同じ施設の友人たちと、まともに暮らせる子達。もう一方は、木イイイ原アアアクウウウン的な方々に、「限界?」なにそれ、食えんの?」という感じで、ぶつ壊される、またはそれに近いことをされる子達。そして残念ながら、俺は後者だつた。

研究員「00044番、薬の時間だ。」

「これは、俺のことだ。薬の仕組みはよくわからんが、それを静脈に一日二回入れられる。もう何ヶ月、いや何年間もこれをやつているが、全然慣れない。今でも時々意識を失うときがあるし、子供が死ぬのだってざらにある。」

ただ、そんな生活の中で唯一良いことがあつたとしたら能力者になれたことだ。ちなみにレベル4である。どんな能力かというと、

研究員「では00044番、この紙の模様を書いて。」

俺「星です。」

研究員「いいだろう。」

透視能力 クリアボイランス ではなく生体電気や信号から相手の

考えていることを読み取る

情報覗見 ノンプライベート（研究員命名）である。もつすべ  
ベル5になると言われている。

レベル5になると半径1km以内の人間、機械を自由に操れて、さら  
に能力者の自分だけの現実 パーソナルリアリティー の読み取  
り、使用が可能になるらしい。つまり擬似的な多重能力者 デュア  
ルスキル になるということだ。

（数カ月後）

レベル5になれた。最近は、慣れてきて一気に水と火と氷を出しな  
がら、空間移動が出来たりする。  
そんなある日、

研究員「お前は、これから違う研究所にいってもらひ。」

この言葉で、俺の人生は、より狂わせられていく……

（数日後）

研究所「一応、テーマにも実験内容を教えてやる。これは、第一  
位の自分だけの現実を直接テーマの脳ミソにブチこんで多重能力  
者を作るつづー実験だ。ちなみに明白の四月計画つーんだ」

いや、待て。多重能力者って脳が耐えられないから不可能じゃない

のか？子供5000人位集めても無理だらう、どう考へても。

実験結果は、一応成功で俺一人だけ生き残つた。しかし実験中に暴走して、自分や周りの子を燃やしたり、発狂した子が続出し、唯一の成功例の俺も反射しかできないので、この実験は凍結となつた。

（さらに数カ月後）

着々と能力を伸ばしてきたところで、新しい実験に参加することになつた。

その名も超能力製造計画 レベル5ファクトリー

俺の能力の一つの演算補助と強制演算によって、能力者の演算能力を底上げしレベル5を作るという計画。

これも明白の四月計画とほとんど同じく300人中298人が暴走二人は成功したが、反乱を起こしたため、凍結となつた。

この時実験の責任者に「実験に参加したくない。」と伝えたら、「その時は毒ガスで、君と実験台 モルモット を殺すしかない。」と言わされて、仕方無く実験に参加した。

ちなみにその二人の能力は自分の体を操る身体掌握 ボディーコン

トローラーと空間移動系の固定座標 フリー・ポイントで俺の一方通行の能力は絶対守護領域 ミラー・ポート（研究員命名）となつていてる。

（一ヶ月後）

この時に俺のために最もなつて、俺が最も嫌いな実験が行われた。

## 第一話 置かれたり チャイルドホラー（後書き）

なぜこんなに話が重くなつた…

冬休みの補習授業なんて消えてしまえーー！

感想評価誤字脱字の指摘お待ちしております。

### 第3話 親友とレベル6（前書き）

ああ、本当に重い。

### 第3話 親友とレベル6

ある日、樹形図の設計者、シリーダイアグラムがとある“予言”をした。

『学園都市第一位、一方通行 アクセラレーターが、第三位、超電磁砲 レールガン を128通りの方法で、また序列無しの情報覗見 ノンプライベート が500人のレベル5を、殺害することでレベル6になる。』と

そんなことも知らず俺はとある施設でいつもと同じような実験をしていて、しかしあつもの施設と違つて友達というのができた。彼の名前は火野紅介。レベル4の一発火能力者、パロキネスト、どんなやつかといふと、

火野「俺がレベル5になつたら、悪い研究員達を全員やつけて一置き去り チャイルドエラー 達をみんな保護してやるんだ！」

正義感の強い奴だった。能力と同じくらい暑苦しくて。そんな俺は、

俺「レベル5なんてそういうなれるもんじゃ無いし、やりようよつてはこの町じゃレベル5でも直ぐ死ぬかもしれないし。それにこういった研究が無かつたら、学園都市の技術の成長は止まつちまうだろ。」

冷静といふか諦めきつていた。しかし俺は何故か火野と馬が合いはずだと一緒に話していた。

そんなこんなしているうちに、新しい実験が始まつた。

研究員「今回の実験は情報覗見が演算補助でレベル5を作りそれを殺す、つてのを500回ほどやってもらう。もちろん拒否したら、ここにいるみんなに消えてもらう。どっちみち処分されるんだから、有効活用してやれよ。」

頷くしか無かつた。そして神に力を望んだ自らの浅はかさを呪つた。

そして実験当日、最初の相手は火野だつた。

火野も自分の状況を把握していた。だからこそ本気で俺を殺しにきた。しかし相手をレベル5にしても反射は生きているので火野の放つた炎は、自分の左手を溶かした。

火野「があああ！」

火野が呻いている隙に一瞬で近づき腹蹴り飛ばす。そして火野が倒れた瞬間に馬乗りになり、拳を構える。

俺「何か言い残したことはあるか？」

火野「レベル6になつても自由に生きろ！－世界中の全員を守

れとは言わねえ。だからー自分の守りたいやつは必ず守れーー

俺は泣いていた。

俺「わかった。ありがとう、あとごめん。」

じうじて俺の学園都市に来て初めてできた親友は俺によつて殺された。

しかし実験はそんな感傷に浸らせる」となく進められていく。

20人位で何も感じなくなつた。

100人位で、自分の能力が強くなつてゐることを自覚した。

300人位で、実験を止められる力を得た。

ーでも止められなかつた。その時の俺は親友の「レベル6になれ。」  
という言葉に縛られていた。

そして500人目で、俺はレベル6になつた。

嬉しくないことは、無かつた。後悔もしていない…いやしてはいけなかつた。ただー空しかつた。人の犠牲の上に成り立つ力に疑問をもつた。

しかし俺は直ぐに行動を起こした。まずは、この実験に関わった研究員を潰した。

そしてこの実験に関するデータを跡形もなく消した。

そして俺は初めて研究所の外を”自由に”歩いた。

### 第3話 親友とレベル6（後書き）

感想評価誤字脱字ごんざん下せー。

ストーリーのリクもあればどうぞ……（答えられないかもしません）

第一章もつ少し続きます。

## 主人公のいまのスペック（ネタバレ有）（前書き）

重い話は終了！！

## 主人公のいまのスペック（ネタバレ有）

名前：神野秀也

自分を捨てた親からもらった名前は、名乗りたくないから、前世の名前に変えた。ちなみに前世の親には感謝している。

レベル6だが、アレイスターに直談判し、レベル5の第六位を名乗っている。しかしその情報すら改竄し、皆にはレベル0と認識されている。

容姿：能力のせいで、ホルモンのバランスが崩れ、髪の毛は灰色に、目は右だけ赤のオッドアイに、顔全体もかなり整っている。身長は176cm。また、両耳には、逆十字架のピアスを付けて右手の人差し指、中指、薬指には、剣、槍、盾が彫つてある指輪をしている。

能力：—情報覗見 ノンプライベート —絶対悪夢 ジ・  
アブソリュート

半径100km圏内の生物、機械の信号を読み取り、操る。

応用：演算補助：対象の演算を助ける。レ

ベル0—十人をレベル5に

できる。

強制演算：対象の演算能力を底上げ

する。やり過ぎると対象

が危険。

強制労働：自分の生体電気を操つて

体のリミッターを外す。

現実取得：周囲の能力者の自分だけ

の現実を読み取つてその

能力を使う。

絶対悪夢…相手の信号を操つて五感に訴えかける幻覚を見せたり、相手を動けなくする。

完全記憶能力…自分の脳の信号を操作していつでも思い出せる。

— 絶対守護領域 ニワーゴート —

絶対標識 オールティレクション

半径100m圏内のすべてのベクトルを操る。また、触れている物のスカラーも1% 10000%にできる。

性格：フリーダム。正義の味方ではないと自覚している。自分と友人のためならなんでもする。

## 主人公のいまのスペック（ネタバレ有）（後書き）

ゆつぴー「これから次回予告をしまーす。」

神野「気が付いたら原作開始一年前！まあ、  
ゆつくり休んで…いられなかつた！！とりあえずアレイスターとか  
一方通行に会わなきやな。つつーわけで次回」

ゆつぴー、神野「「第4話無敵の邂逅…」」

## 第4話 レベル6の邂逅（前書き）

なんかお気に入り登録してくださった方が九人も……！

本当にありがとうございます。（――）

そして、一方通行のキャラ崩壊が…

## 第4話 レベル6の邂逅

研究所を出たのはいいが、いくあてと金がない。…困った。金が無いからホテルにも止まれないし、かといって野宿すると補導される。今は警備員アンチスキルのお世話になりたくないしな。

そんなこんなで、悩んだ結果統括理事長アレイスター・クロウリーに相談（脅迫）することにしよう。よし、思い立つたが吉田。早速空間移動をパクって窓のないビルにjump!-

～窓のないビルにて～

今俺の目の前には男にも女にも子供にも老人にも聖人にも囚人にも怒っているようにも笑っているようにも見える人（？）がいる。

アレイスター「何の用だ。一絶対能力者（レベル6）の高田直人。」

俺「まず、俺の名前は神野秀也だ。あと学園都市最強を名乗つてつと色んな奴らに襲われつから、レベル5の第6位にでもしててくれ。まあ、あと衣食住と金を保証してくれ。これじゃあ生活出来ん。」

アレイスター「ふむ。しかしそれをすることによつて私に利益はあるのか？」

俺「無いな。「では…」でもしてくれ無かつたら、全力で学園都市を壊す。一今の俺（レベル6）なら、その程度朝飯前だな。」

アレイスター「それなら仕方ないな。とりあえずレベル5としての奨学金と口座、さらに今までの実験の謝礼を出そつ。それで、食べ物と服を買つといい。家は第19学区の空き家を使つといい。これがクレジットカードだ。」

俺「まあ、それでいいや。んじゃ、家探しに行くわ。」

と書つて俺は外にテレポートする。

とりあえず服と携帯電話を買つたし、飯も食つた。それじゃそろそろ家探しますか！

と思つてつと前から白もやしが来てるじ。

一方通行「あア？ テメエ、学園都市第一位にケンカ売るたア 一度胸してンじやねエか。」

俺「あー、わりい。思わず心の声が出てきてたわ」よけエワリイよ！…」すまん、すまん。といひでお前の実験つていつやるんだ？」

一方通行「あア、アレカア。そんなら明日からだぜエ。ツツ一かオマエ何モンだ？ なンで実験のことしつてやがンだア？」

俺「まあ、実験の関係者つてとこかな。」

嘘は言つてない。俺のは一方通行の『モнстレーション』っていう側面があつたらしいしな。

俺「そんなことはないでもいいんだけど。いい気分じゃねーぞ？」

誰かを犠牲にして力を得るつーのは、実験を拒否出来る力があるんなら止めとけ、そんなもん。それにもしあ前が、人との繋がりが欲しくて、でも人を傷つけたくないくて力が欲しいんなら、俺が友達になつてやるよ。」

そう言つて俺は一方通行の肩をポンッと叩く。

一方通行「反射は生きてる…？」テメエ、ナニしやがッた！？

俺「能力使った。んじゃ、お前の携帯に俺の番号とメアド（能力で）登録しといたから。いつでも連絡くれよな。じゃあな（^○^）／

「

そう言い残して、俺はテレポートする。

＼一方通行 side＼

オレは、明日に大事な実験があるので関わらずコーヒーを大人買いしていた。すると前にいた、男が

「……つと前から白もやしが来てるし。」

ケンカ売ツてキヤガツた。

一方通行「あア？ テメエ、学園都市第一位にケンカ売るたアいイ度胸してンじやねエか。」

俺「あー、わりい。思わず心の声が出てきてたわ」よけヒワリイよ

「……すまん、すまん。とにかくお前の実験つていつやるんだ？」

ンア？コイツ実験の関係者かア？

一方通行「あア、アレカア。そんなら明日からだぜ。ツツーかオマエ何モンだ？なンで実験のことしつてやがんだア？」

俺「まあ、実験の関係者つてとこかな。」

ヤツぱりなア。そしてコイツは続ける。

俺「そんなことはどーでもいいんだけどさ。いい気分じゃねーぞ？誰かを犠牲にして力を得るつづーのは。実験を拒否出来る力があるんなら止めとけ、そんなもん。それにもしあ前が、人との繋がりが欲しくて、でも人を傷つけたくないで力が欲しいんなら、俺が友達になつてやるよ。」

ンなコト言ツてコイツはオレの肩を叩いてきやがッた！？

一方通行「反射は生きてる…？テメエ、ナニしやがッた！？」

俺「能力使つた。んじや、お前の携帯に俺の番号とメアド登録してたから。いつでも連絡くれよな。じゃあな（^○^）～」

そう言ツてヤツは、突然消工ヤガッた。多重能力者かア！？アイツはア！？

そん後に携帯を見てみツと一件だけ知らネエナマエがあッた。

「神野秀也…ナニモンだア？アイツは？」

（一方通行 side end）

（神野 side）

さーて、皆さん。俺は今第十学区名物のスキルアウトに囲まれている。ただ、少し普通とは状況が違う。それは、

スキルアウト」「「「」」」のリーダーになつてください、兄貴  
！...」「」」

こんな感じだ。まあ、あらすじを説明すると、

第19学区でなんか不良にボコられていた男発見。

不良をボコつて男救出。

男は実はスキルアウトで、男の仲間に歓迎される。

頼まれて、そいつらと敵対するスキルアウトを壊滅させる。  
(五分钟で能力未使用)

なんかリーダーになつてくれと言われる。

（こんな感じだ。

俺「別にいいけど俺、能力者だぞ？しかもレベル5。ちなみに序列は六位な。」

スキルアウト」「「「それでも構いません！...兄貴！...」「

…なんか舍弟が出来てしまつたようだ。（50人位）

## 第4話 レベル6の邂逅（後書き）

感想評価誤字脱字の指摘お待ちしています！！

ここので読者の皆さんに質問ですが、この小説の字数を増やしたほうが良いでしょうか？コメント、感想に書いてください m(—\_)m

一方通行「次は、神野が能力を本格的に使いつらしいなア」

ゆつぴー、神野「次回第5話 原作直前の休暇」

## 第6話 原作前の休暇（前書き）

サブタイの意味不明

こんなですが過去最長。

一応自信作です。

それでは、どうぞー！

## 第6話 原作前の休暇

皆さん、こんにちは。少し前にノリでスキルアウトのリーダーになってしまった神野秀也だ。今俺の組織は、駒場のこと、二年前に死んだ黒妻のビッグスパイダーと張り合つ程の組織になって、いま、第19学区をまとめている。

ちなみに俺の組織にはいくつかルールがある。

- 一、強引なナンパの禁止。
- 一、少數相手に大人数で行かない。
- 一、無能力者相手に能力は攻撃に使わない。
- 一、一般人にケンカ売るな。

大体こんなもんだ。あと、メンバーは俺がレベル6であることを知っている。また、俺の能力の強制演算と演算補助を軽く使って、メンバーの全員が能力者になっている。ちなみにレベルは、殆どが2で、高いやつで3だ。当時は、皆「もつとやれ」って言ってたが、翌日に脳を使い過ぎたことによる頭痛とやり過ぎたら死ぬと言つたらそんな声もなくなつた。

大分話が逸れたが、いま俺たちは駒場んとこにケンカをしに行こうとしている。理由？暇だからに決まつてんだろ。だつてあいつ俺が強いらしいってだけで、ハードテーゼーピング使ってくるし。あと、第7位の攻撃耐えるやつ、モツ鍋つて名前の、がいるしな。まあ、暇潰しにはうつてつけの面白い奴らなんだな。

今駒場の奴らとのケンカが終わったところだ。あ？ 内容？ 簡単に説明すると俺と駒場が、7分くらい殴り合ってたら、あいつが全身肉離れしたとか言ってダウン。そつから一気にこっちが優勢になって圧勝で終わった。

そしてまた新たな問題が来ている。それは、

? 「二」んなに相手をボコボコにするとは根性の無い奴らだな！…くらえ必殺、すごいパンチ！…

ドゴォという大きな音を出して俺は隣の廃ビルに叩きつけられ、ビルに蜘蛛の巣みたいなヒビが入る。

俺「あー、お前ら駒場の奴ら連れて今すぐ逃げる。こいつは、学園都市のレベル5第7位、ナンバーセブンこと削板軍霸だ。俺とこいつがケンカしたら周りが壊滅するから、巻き込まないよう早く逃げろ。」

と言つてこいつらを逃がす。

削板「ほつ兄ちゃん、舍弟を逃がして俺に一騎討ちを挑むとは、根性あるじやねえか。兄ちゃん名前は？」

俺「神野秀也。」

それだけ言つて、俺は能力を使って思いっきり地面を踏みつける。

すると周りにあつたビルの全てが崩壊し、その破片が全て音速を超えてら削板に迫る。それがあいつは、

削板一根基おおおーーーすごいバンチラアアアシコツツツツ！

全て粉碎した

俺へ！ それで連発出来たんだ。

削板！ うおおおお！！！！根性があれば何だって出来る！！そして今のは、中々根性のたる攻撃だつたぞ！！

そう言つたかと思うとあいつの背後でいきなりバンと爆発が起り、モクモクと七色の煙があがる。

俺  
「ふーん、ありがと。」

そう言ひて刹那の速さであいつに近づき思いつきり蹴りを食らわそ  
うとする。それがあいつが、

**削板「超すごいガード！-！-！-！」**

解析不能な壁を生成して防ごうとする。しかし今の俺の蹴りは、聖人の全力でさらに生体電気の操作とアドレナリンを強制的に大量に分泌させ、なおかつ足のベクトルとスカラーを操作によって、最早蹴りのカテゴリーから外れた破壊力を秘めている。だから、あいつの盾ごとあいつをぶつ飛ばし、あいつは何個かの廃ビルを貫通して止まつた。

……うん、あいつは気を失つたるみたいだけど、生きてるな。まさしく理解不能だな。ちなみに俺たちが（主に俺）ぶつ壊したビルは、使い道がなくなつて取り壊す費用ももつたいないと言われて放置されていてる建物だつたから賠償は請求されなかつた。ただ駒場の奴らには、怒られた。

（3月）

（白井黒子 side）

わたくしは今固法先輩が銀行でお金をおろそつとしているとき、「元年」の初春に偶然会つた話をしているところです。

初春「よく知らない人のことをそんなに言えますね…」

白井「そう言えれば、大体失敗して寂れた第19学区の方が生徒の多い第7学区より治安がいいというのは、おかしいです。」

初春「あー、それはなんか第19学区をまとめているスキルアウトのリーダーがすごい強くて悪さが出来ないかららしいですよー。」

白井「知っていますの。でもこの前あつた謎の廃ビル大量崩壊事件の犯人が、その殿方という噂があります。」

初春「そうだつたんですか！？もしそうだとしたら、その人って相当高位の能力者なんでしょうねー。」

（白井 side end）

さて俺たちは今第7学区のゲーセンを巡る為に銀行で資金を得ようとしている。ちなみに俺たちの組織の活動資金は俺たちの奨学金だつたり、スキルアウトにわざとケンカを売られて「迷惑料」を貰つ

たりしている。そこで待ち時間の間爆睡していると、なにやら女子が叫んでいるのが聞こえたので、め田を開けると、

破壊された警備口ボ、大怪我を負つて倒れている高校生位の女と、大怪我を負いながらも明らかに「銀行強盗」つていう感じの男に立ち向かっている女子。：うん、明らかに銀行強盗だね！よし、こは、なんか期待の眼差しでこっちを見ている舎弟たちの為にも少しボケをかますか！！

そう思い、俺は銀行員に近づいて、

俺「そろそろ俺の番ですか？ 口座から、10万おろして下さい。」

金を要求した（合法的に）。ふふつ、銀行員の女人めっちや困つてゐるww

銀行強盗「おい！ふざけてんじゃねーぞー！」

とか言つて鉄球を投げてくる。

んー、鉄球にかかる力を強制的に釣り合わせて等速直線運動させる能力か、でも残念、俺の能力は、物理系最強だからそんなのは、通用しないんだよ！

俺「いらん、そんな鉄球。」

そう言つて向かつて来た鉄球にデコピンをする、するとその鉄球が目で見えない速さでその男の横を通りすぎ、後ろの壁に刺さる。

銀行強盗「つちつーなら複数の鉄球ならどうだー？」

と叫んでこつちに10個位の鉄球を投げてくる。それを俺は近くの  
てレポート  
て空間移動を使って全部男の背後に飛ばす。

男は、自分背中に刺さりそうになつた鉄球にかかつてている能力を解除するが、その隙に男に近づき膝蹴りを溝尾に食らわせる。そしたら男は一瞬うめき声をあげて、意識を手放した。

（白井 side）

自分がでしゃばつたせいで一時はどうなるかと思いましたけど、突然現れた殿方のお陰で助かつたです。

助けてくれた殿方「怪我、大丈夫？」

白井「ええ、貴方のお陰で何とか助かりました。ありがとうございます。」

助けてくれた殿方「それは良かつた。それじゃあ俺はもう行くわ。お前ら、行くぞ。」

白井「ちょっと待つて欲しいですの！」

わたくしの制止も聞かずその殿方は、仲間たちとトレーポートしてどこかに行ってしまったのです。

途中のは一体何だったのでしょうか？能力を一つ使っているように見えましたが…。



## 第6話 原作前の休暇（後書き）

感想評価誤字脱字の指摘お待ちしています。

白井「時は変わって、もうすぐ夏休みです。そんなときに、四ヶ月にわたくしを助けてくださった殿方と雰囲気が似た殿方が、委員として、だい177支部にやつて来たのです。」

ゆっぴー、神野「「第7話（超電磁砲の）原作介入」」

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8143z/>

---

とある無敵の多重能力者

2011年12月27日00時50分発行